

21世紀の 健康科学

Health Science for the 21st Century

財団法人MOA健康科学センター設立20周年記念号

統合医療を推進、新しい医学の創成へ

自然順応型健康法の研究と学会発表、情報提供を事業の柱に



財団法人エム・オー・イー健康科学センター
MOA Health Science Foundation

2011
夏

21世紀の
健康科学
2011年7月15日発行 年3回(3・7・11月)15日発行
2011年夏号 第39号

発行所 (財)エム・オー・イー健康科学センター

〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1の1の60 電話 0557(86)0663
FAX 0557(86)0665 E-mail: webmaster@mhs.or.jp

賛助会員の支援を受けて健康増進事業を推進 「賛助会員」入会のご案内

本財団では、事業目的に示している「人間が本来備えている自然治癒力を生かす自然順応型の健康法」の調査研究をはじめ、その活用による心身両面の健康づくりの情報を総合的に提供致しております。特に設立以来、調査研究を積み上げてきた「岡田式浄化療法」「食」「芸術」「運動」などを取り入れた健康法を進めており、地域社会における健康づくりに役立ちたいと考えております。

このような財団の事業展開の支えとなっているのが、賛助会員の皆さまのご理解と会費によるご協賛です。賛助会員にご入会の皆さまには、会員誌や最新刊行物の送付をはじめ、行事案内、健康づくりの情報などを提供させていただきます。どうぞご入会いただき、地域社会に健康づくりのネットワークを広げる活動にご協力をお願いします。

個人会員 5,000円(年会費、1口)
団体会員 50,000円(年会費、1口)

◎お申し込み・お問い合わせ先
(財)MOA健康科学センター賛助会員事務局
〒413-0038
静岡県熱海市西熱海町1の1の60
電話 0557(86)0663 FAX 0557(86)0665
E-mail: webmaster@mhs.or.jp



団体(法人)会員様のご紹介

ここに記す法人の皆さまに、団体会員としてご賛同いただき、ご協力をいただいております。

伊豆箱根鉄道株式会社

住所: 〒411-8533
静岡県三島市大場300
TEL: 055(977)1201
URL: <http://www.izuhakone.co.jp>

株式会社エム・オー・イーインターナショナル

住所: 〒413-0011
静岡県熱海市田原本町9番1号 熱海第1ビル
TEL: 0557(84)2700
URL: <http://www.inter.moanet.co.jp>

株式会社エム・オー・イー商事

住所: 〒413-0011
静岡県熱海市田原本町9番1号 熱海第1ビル
TEL: 0557(84)2611

株式会社 エムオーエートラベルサービス

TEL: 旅行部 0557(84)2800
TEL: 保険部 0557(84)2822
URL: <http://www.sompojapan-ag.com/a/moa-travel/>

財団法人エム・オー・イー美術・文化財団

住所: 〒413-8511
静岡県熱海市桃山町26の2
TEL: 0557(84)2511
URL: <http://www.moaart.or.jp>

医療法人財団玉川会

住所: 〒108-0074
東京都港区高輪4の8の10 MOA会館1階
TEL: 03(5421)7089

富田醤油株式会社

住所: 〒713-8115
岡山県倉敷市玉島道2848
TEL: 086(522)2263

株式会社日本海フーズ

住所: 〒669-6544
兵庫県美方郡香美町香住区香住1452
TEL: 0796(36)1500
URL: <http://www.nfoods.co.jp/>

株式会社ワイズ

住所: 〒135-0047
東京都江東区富岡1の26の18
TEL: 03(6458)8121
URL: <http://www.wisejp.net>

(五十音順)

健康日本21

シンボルマーク

太陽、願い、希望の光

球は、太陽を表しています。
太陽は生命のエネルギーの源であり、日本の象徴でもあります。

また、球には個人や、団体の健康への願いがギュッと詰まっています。
そこから放たれる勢いある光は、健康寿命の延命および生活の質の向上を目指すものです。



財団法人エム・オー・イー健康科学センターは、健康日本21推進全国連絡協議会の加入団体です。
私たちは、21世紀における国民の健康づくり運動「健康日本21」を自然順応型の健康法の研究・普及を通して支援しています。

統合医療を推進、新しい医学の創成へ

自然順応型健康法の研究と学会発表、情報提供を事業の柱に



本財団が新田記念統合医学研究所、(医財)愛和会と主催した「第2回岡田式健康法研究会」の公開シンポジウム＝平成22年11月6日、広島国際会議場

平成3年に設立された本財団は、本年6月をもって設立20周年を迎えました。

その設立趣旨は、国民の健康増進を願い、新たな健康法を提唱しつつ、昭和11年に「大日本健康協会」を発足させ、「健康日本の創造」をスローガンに掲げ、日本式健康法の普及に努めた岡田茂吉(明治15〜昭和30年)が手掛けた事業に基づくものです。

岡田の事跡を現代に生かすべく、厚生労働省(健康局・生活習慣病対策室)所轄にあって厚生行政プランを視野に入れ、国内外の研究機関、医療機関と協力し、岡田式健康法(浄化療法・食療法・美術文化法)をはじめとした「人間が本来備えている自然治癒力を生かす自然順応型の健康法」の調査研究を進め、その活用による心身両面の健康づくりに関する情報の提供に努めてきました。

今号では、本財団設立20周年記念号として、国内外での調査研究、講演会、セミナーなど、これまでの事業を振り返ります。

ご挨拶

岡田茂吉先生の健康観をもとに 真の健康と幸福もたらす医学の創成へ

(財)MOA健康科学センター理事長 鈴木 清志

私は、本財団が設立された当初から評議員を拝命し、平成15年からは理事長となり、多くの関係者の皆さまのご協力をいただきながら、現在に至っております。

本財団は、MOAの創始者である岡田茂吉先生の健康観をもとに、現代西洋医学の限界を予測し、設立当初から、人々の真の健康と幸福をもたらす医学を創成するために活動してまいりました。

現代西洋医学は、病気を治し、患者の寿命を延ばすことを重視してきました。それ自体はとても大切なことですが、医学的に正しいといわれる治療を優先して、本人の希望を十分に尊重しない傾向があります。西洋医学はまた、本人の持つ自然治癒力をあまり信用せず、薬や高度先進医療に頼り過ぎる欠点があります。これが医療費の高騰や、薬による環境破壊にもつながっています。

現在問題となっている慢性疾患や心の病の多くは、生活習慣やストレスが原因であり、生活習慣の改善を支援することで、薬などに頼らなくても病気の改善が期待できます。また薬の使

用が減れば、医療費を減らすことが可能となります。

大切なのは、生活習慣の改善を促す具体的な方法を示すことです。が、国内外の学会に参加し、世界各国の有識者と話をすると、岡田先生の健康観に基づく岡田式健康法は、まさにその具体的な方策だと分かります。

つまり「自然治癒力を大切に『自然治癒力』を大切に『生活習慣の改善をサポートする医療』に『薬に頼らない医療』治療医学よりも『予防医学』「体・心・魂(スピリチュアル)の健康を増進する医療」は統合医療の定義そのものであり、現代西洋医学と岡田式健康法を組み合わせた療院と、それを支える地域のボランティア組織(MOA健康生活ネットワーク)は、生活習慣の改善を支える貴重な医療資源なのです。

この概念を昭和の初期に確立した岡田先生の先見性には、あらためて頭が下がる思いです。本年3月11日に起きた東日本大震災に際しても、現代医学に



第3回国際相補代替医療研究会議の折、渥美和彦日本統合医療学会理事長(中央)ら、参加者と懇談する鈴木理事長＝平成20年3月29日・オーストラリア

岡田式健康法を取り入れた医療支援チームによって、病気の不安が和らいだだけでなく、心が癒やされた、自然と人、人との絆の大切さを感じたなどの声をいただきました。

本財団は、岡田先生の健康観に共鳴する国内外の研究者に対して研究助成を行うと共に、財団内でも、特に岡田式健康法に関する科学的な研究を進めています。また、多くの有識者の先方に顧問や研究推進委員として就任いただき、本財団の活動の充実に努めてまいりました。

現在では、本財団の営みは国内外からの信用を得て、財団内



東日本大震災の避難所を訪れ、被災者の言葉に耳を傾ける＝3月29日、石巻市・法山寺幼稚園

での研究も、国内外の学会で発表したり、論文として雑誌に掲載されるようになりました。

このような財団の活動を、長年にわたって支えてくださった有識者の先生方、関係者の皆さま、そして財団の賛助会員の皆さまに、あらためて心から感謝申し上げます。

今後、岡田先生の理念に賛同する国内外の団体などと連携して、岡田式健康法をはじめとする各種健康法の研究を進め、人々の真の健康と幸福のために活動してまいります。

今後とも、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

年表

(平成3年～23年)

3年 6月	「財団法人MOA健康科学センター」設立 (主たる事務所 東京都世田谷区) 研究助成・委託研究の開始(専門委員会の設置)
12月	「東京研究室」での研究開始(世田谷区)
4年 4月	育英奨学生の募集開始
7年 9月	「MOA九州生命科学研究所」を「福岡研究所」として当財団に併合
8年	賛助会員制度の開始
9年 5月	機関誌「ニューズレター 第1号」発刊(～6号) ※機関誌5号より機関誌「ふおとん」を合併
10年 6月	「MOA生命科学研究所」開所(静岡県熱海市)
11年 9月	「鍼灸マッサージ大仁治療院」開院(静岡県大仁町) (～14年3月)
12月	機関誌リニューアル「サウージ第7号」発刊(～13号)
12年 4月	食品分析事業の開始(16年3月まで)
6月	「研究推進委員会」設置
10月	ホームページの開設 http://www.mhs.or.jp/
13年 6月	「東京研究室」を「MOA生命科学研究所」(熱海市)に併合
14年 1月	「健康日本21推進全国連絡協議会」入会
6月	「福岡研究所」を「MOA生命科学研究所」(熱海市)に併合
15年 2月	機関誌リニューアル「健康科学 第14号」発刊(現在に至る)
16年 5月	「倫理委員会」設置
17年 9月	主たる事務所移転(熱海市)
18年 5月	東京事務所設置(東京都港区) 大阪研究室設置(大阪府吹田市)
19年 3月	「治験審査委員会」設置
23年 6月	「財団法人MOA健康科学センター」設立20周年

機関の歩み

本財団は、平成3年6月14日、厚生省(現・厚生労働省)の認可を得て設立されました。以来「人間が本来備えている自然治癒力を生かす自然順応型の健康法を提唱し、人々の心身両面の健康の増進に寄与すること」を願い「医学および各種健康法と食、運動、環境等々の健康への関連を総合的に調査、研究すること」を事業として取り組んできました。

当初、東京研究室という小規模な施設での研究から着手しましたが、後にMOA九州生命科学研究所を併合、さらに静岡県熱海市に2階建ての研究施設「MOA生命科学研究所」を建設。サーモグラフィ、食品分析機などの検査機器をそろえ、岡田式健康法の調査など、より充実した研究へと歩んできました。

また、育英奨学生事業による人材育成、機関誌発行、ホームページの設置など、事業をより充実させながら取り組んでまいりました。こうした事業の支えとなっているのが、同8年度から設けた賛助会員制度です。賛助会員の皆さまのご支援がなければ、本誌の発刊など、各種事業を進めることはもちろん、岡田式浄化療法に関わる科学的研究の成果も生まれなかったものと、深く感謝しています。



本財団設立発起人会



MOA生命科学研究所(静岡県熱海市)

ご挨拶

自信と誇りを持って、療院と健康生活ネットワークが連携した活動の推進を

新田記念統合医学研究所 所長
(財)MOA健康科学センター 顧問(初代理事長) **新田 和男**



財団設立20周年、誠にありがとうございます。ご承知のように、(財)MOA健康科学センターは人々の「真の健康」を目指して、自然治癒力を生かした心身両面の健康の増進に寄与することを目的に設立されました。その根底にありますのは、MOAの創始者である岡田茂吉先生の手掛けた幾多の事業にあります。

私が岡田先生の思想哲学を知ったのは、今から54年前になります。当初、岡田先生の論文を読み、その崇高な理論と温かい人間性に引かれていく一方で、健康法として掲げる岡田式浄化療法は、医師として科学者として、到底信じる事ができませんでしたが、浄化療法の体験を積み重ねるほど、病気が良くなるだけでなく、心も癒やされて、幸せな生き方を送られる方々の姿を数多く見るようになり、浄化療法の素晴らしさを確信するに至りました。

一方、私は抗がん剤などの薬剤開発に長年従事してまいりましたので、薬剤の功罪を十分過ぎるほど知っておりました。その中で、年々進む、薬に頼り過ぎる医療、人間を臓器単位に細



第1回岡田式健康法研究会で挨拶する新田所長

分化する医療を憂えていたのも事実です。そういう意味からも、人間を全人的に捉える理論と、こうした現代社会を予知されていた岡田先生の先見性にも驚いておりました。そして「真の健康」をうたう岡田先生の理論を誰もが納得する手法で示し、広めていかなければならないと願っておりました。その受け皿として、この財団の大きな意義があるように感じておりました。

設立当初は、京都大学名誉教授の大島清先生や、元昭和大学理事長の故紺野邦夫先生をはじめとする著名な先生方に役員や委員をお引き受けいただき、非常に感激致しました。これまでご尽力くださいました先生方

(財)MOA健康科学センター設立20周年に寄せて――

現代医療は治療のための医学が主になり、現在の医療保険制

現代医療から見放された患者さんや余命いくばくかといわれた患者さんが、奇跡的に今でも元気で過ごされている症例を見させていただき、さまざまな効果の結果が出ることで、浄化療法の意義がよく分かり、統合医療学会などで研究の成果を発表させていただいています。

現代医療から見放された患者さんや余命いくばくかといわれた患者さんが、奇跡的に今でも元気で過ごされている症例を見させていただき、さまざまな効果の結果が出ることで、浄化療法の意義がよく分かり、統合医療学会などで研究の成果を発表させていただいています。

現代医療から見放された患者さんや余命いくばくかといわれた患者さんが、奇跡的に今でも元気で過ごされている症例を見させていただき、さまざまな効果の結果が出ることで、浄化療法の意義がよく分かり、統合医療学会などで研究の成果を発表させていただいています。



(医財)光輪会 光輪会鹿兒島クリニック 院長 牧美輝氏

求められる靈性を見据えた医療

MOA健康科学センター設立20周年おめでとうございます。私自身、産婦人科としての仕事だけではなく、福祉施設、特に重症身体障がい者療養施設や知的障がい者支援施設の責任者として勤めてまいりました。

生命の誕生に喜びと感動を覚える一方で、幼い子を産むこと、病気で亡くなる母親をみることもありましたし、死産や流産、障がいのある子どもの誕生など、生命の誕生と終わりの両方に立ち会い、普通の人よりも深く命の尊厳性が私の心に刻み込まれました。

そうしたことをきっかけにMOAと出会い、鹿兒島クリニックの院長を引き受けました。岡田式健康法をはじめとする研究に貴財団の研究員の方たちと取り組み、特に岡田式浄化療法による臨床効果を研究してきました。

現代医療から見放された患者さんや余命いくばくかといわれた患者さんが、奇跡的に今でも元気で過ごされている症例を見させていただき、さまざまな効果の結果が出ることで、浄化療法の意義がよく分かり、統合医療学会などで研究の成果を発表させていただいています。

現代医療から見放された患者さんや余命いくばくかといわれた患者さんが、奇跡的に今でも元気で過ごされている症例を見させていただき、さまざまな効果の結果が出ることで、浄化療法の意義がよく分かり、統合医療学会などで研究の成果を発表させていただいています。



新田所長は岡田式浄化療法の研究に力を注いでいる

に、深く感謝申し上げます。設立当初より岡田式健康法に関する研究にも携わってまいりました。現在、大仁研究室で行われている脳波や自律神経機能を測定する研究では、私自身が浄化療法施術者として実施しております。自律神経機能の研究では、浄化療法を施術することによって、人間が持つホメオスタシス(生体の恒常性)の力が強くなるという印象を与えるデータが観測されていますが、私たちにはまだまだ研究しなければならぬことがたくさんあります。今後のさらなる研究の進展を期待する次第です。

統合医学研究所との共催で開催されるまでになりました。昨年、第2回研究会を広島で、そして第1回中南米地区研究シンポジウムをチリで開催致しました。回を重ねるごとに明確になりましたのは「真の健康」に向かうには、MOA健康生活ネットワークなどの地域に根差したボランティア活動と療院、瑞泉郷との連携が重要であることです。

賛助会員の皆さまをはじめとするこれらの活動に関わる皆さまが「真の健康」さらには「新しい医学」を創成する原動力であることに疑う余地はありません。自信と誇りを持って、さらなるご尽力をお願いする次第です。新田記念統合医学研究所としましては、岡田式健康法推進に理解ある医師の輩出と、協力医師の輪をもって、統合医療推進に寄与してまいりたいと願っております。

「真の健康」に向かうには、何よりも「人を思いやる心、人の幸せを願う心」が広がることだと思います。今後も私たちの願う輪が全世界に広がり、全人類が健康で幸せな生活が送れる時代が来ることを心の底から願っております。

年表 — 各種講演会 (平成11年～22年)

- 11年 3月 「生命(いのち)の博覧会」への出展(東京ビックサイト)
- 14年 4月 第1回「健康科学セミナー」(熱海市)
講演 柳川勉工学博士(本財団特別研究員)
「生物フォトンを通しての人体の研究」
- 7月 第2回「健康科学セミナー」(熱海市)
講演 山根健治農学博士(宇都宮大学助教授)
「花や植物による癒し」
- 10月 第3回「健康科学セミナー」(熱海市)
- 15年 1月 「2003食と農健康づくり東京フォーラム」の開催(東京都調布市)
※(社)東京都栄養士会、NPO法人MOA自然農法文化事業団との共催(～現在6回開催)
- 17年 5月 講演会「食を愉しむ」(大阪市)
藤原政嘉医学博士(大阪市立大学大学院生活科学研究科特任教授)が講演
- 21年 9月 「第1回岡田式健康法研究会」の開催(東京都港区)
※新田記念統合医学研究所との共催
- 22年 10月 「第1回中南米地区岡田式健康法研究シンポジウム」の開催(チリ)
※新田記念統合医学研究所との共催



- 11月 「第2回岡田式健康法研究会」の開催(広島市)
※新田記念統合医学研究所、(医財)愛和会との共催

本財団が主催し



第1回岡田式健康法研究会にて「岡田式健康法の効果とMOAの目指す医療」について報告する鈴木清志理事長＝平成21年9月20日



『夜と霧』の著者で精神医学者のヴィクトル・フランクル医学博士の講演会＝平成5年5月30日

各種講演会開く

本財団は、国民の健康づくりに寄与していきたいと、有益な情報や統合医療をはじめとする医学および各種健康法の調査、研究の成果を広く紹介、提供すべく、講演会やセミナーを開いてきました。

ギリシャのスピロス・マルケートス博士(国際ヒポクラテス財団理事長)、名著『夜と霧』で世界的に有名な精神医学者のヴィクトル・フランクル博士、さらには1977年度ノーベル化学賞受賞者のイリヤ・ブリゴジン博士(国際ソルベイ物理および化学研究所所長)、心身医学の権威である池見西次郎医学博士(九州大学名誉教授)など、国内外から有識者を招いて講演会を開催してきました。

また、協力関係にある団体と共催してのフォーラムやセミナーも積み上げています。近年では、国民の健康づくり運動である「健康日本21」運動に賛同し、東京都栄養士会、NPO法人MOA自然農法文化事業団(現、一般社団法人)との共催で「食と農、健康づくり東京フォーラム」を開催(これまで14回開催)。本年3月の同フォーラムでは、橋本聖子参議院議員の基調講演「食と健康について～アスリートの視点から」などを行いました。

静岡県伊豆の国市の大仁瑞泉郷で行われてきた春の「花まつり」、秋の「健康と秋の収穫まつり」では、本財団も共催して、医師による健康ミニセミナーや血管年齢などの健康度測定を実施。この折に集めたデータを元にした研究も進められています。

平成21年9月には「第1回岡田式健康法研究会」(東京都港区・約2,000人が参加)、同22年11月には「第2回岡田式健康法研究会」(広島市・約1,300人が参加)を開催。同研究会の一般公開シンポジウムなどは、統合医療を推進する専門家によって、広く社会に対して今後の医療の在り方を提案していく良い機会となっています。その動きは海外にも広がり、同年10月には「第1回中南米岡田式健康法研究シンポジウム」(チリ・サンティアゴ市)が開催されるなど、国内外の医療機関、研究者と共に世界人類の健康を願った活動が広く展開されるようになってきました。



第1回健康科学セミナーでは、柳川勉特別研究員が「生物フォトンを通しての人体の研究」について講演した＝平成14年4月20日



「2011食と農、健康づくり東京フォーラム」では橋本聖子参議院議員が講演＝平成23年3月6日

年表 — 各種講演会 (平成4年～11年)

- 4年 2月 「健康と環境シンポジウム」を主催。厚生省が後援(静岡県熱海市)
大島清医学博士(京都大学名誉教授)が基調講演
「脳の健康と環境」
- 5年 4月 「特別講演会」(日本医史学会と共催)。在日ギリシャ大使館後援(熱海市)
スピロス・マルケートス医学博士(ギリシャ・コス国際ヒポクラテス財団理事長)記念講演
「現在に息づくヒポクラテス医療とその予言的な役割について」



- 5月 「記念講演会」(国際全人的医療学会設立発起人会)(熱海市)
ヴィクトル・フランクル医学博士(ウィーン大学名誉教授、オーストリア精神療法医学会会長)の記念講演
「私の生涯とロゴセラピー(実存心身医療)」
- 6年 5月 「招待講演会」(MOAインターナショナルと共催)(熱海市)
イリヤ・ブリゴジン化学博士(ベルギー・国際ソルベイ物理及び化学研究所所長)が招待講演
「科学と自然観における西洋と東洋の歩み寄り」
- 8月 招待講演会(MOAインターナショナルと共催)(熱海市)
ニキ・グランドリス女史(ギリシャ・グランドリス自然史博物館館長)の講演
「古代ギリシャにおける自然と医学」
- 8年 6月 「財団設立5周年記念講演会」(熱海市)
鈴木清志医学博士(榊原記念病院小児科副部長)が記念講演
「日本、イギリス、オランダにおける先天性心疾患の研究」



- 9月 「財団設立5周年記念講演会」(福岡市)
池見西次郎医学博士(九州大学名誉教授)が特別講演
「人間本来の健康について」
- 10月 「第1回都民の健康づくり推進の集い」((社)東京都栄養士会との共催)(東京都豊島区 ～8回)
鈴木智医師(東邦大学医学部心身医学講座診療内科医局長)が講演
- 9年 3月 「第1回研究発表」の開催(東京都港区)※第6回まで開催
宮田幹夫医学博士(北里大学医学部教授)が研究報告
「環境因子の眼障害性」「生活環境因子と花粉症」他
- 10年 5月 全国栄養士研修会の開催(神奈川県箱根町)
- 11年 2月 「東洋医学関係者の集い」(静岡県大仁町)
森和医学博士(国際伝統医学理論研究所所長・明治鍼灸大学名誉教授)が記念講演
「東洋医学基本概念の科学化」

財MOA健康科学センター設立20周年に寄せて——

この研究会参加によって、岡田式健康法の研究の進展に刺激を受けた私は、本年3月、医療関係者のサポートと熱意によって、岡田式健康法が病院の入院患者プログラムに取り入れられているタイのダムナン・サドゥアック病院を訪問。翌4月には、チリ、サンティアゴ市のアルトゥロ・ロペス財団(がん専門クリニック)の主任研究員であるマエベ・ケリー医師に

お会いしました。ステージⅡ、Ⅲの乳がん患者の岡田式健康法によるQOLの改善を評価するという研究をさせていただきましたが、このように医療機関と連携しての研究プロジェクトを実際に見せていただく中で、米国においても、医療機関と組んだ研究プログラムを模索し、スタートさせなければならぬと強く感じました。

岡田先生の提唱した岡田式健康法は、人間の身体、精神、霊的な側面を、現代医学を含み、あらゆる代替・補完医療を用いて健全にしていくという統合医療の考え

方と合致し、米国においても、多くの人が症状改善のために統合医療的手段を用い、また大学の医学部は、若い医師の育成に統合医療の科目を導入するようになりま

した。

しかし、統合医療を現代医学の

医師や一般社会が大きく受け入れ

るようになるには、エビデンス

(根拠)を証するための研究が不可

欠です。その意味でも、MOA健

康科学センターの役割はまことに

大きいものがあります。

自然と調和した、人に尽くすこ

とに喜びを見いだす、人間として

生きがいに満ちたライフスタイル

を送ることのできる新しい医学の

樹立を目指して、共に努力するこ

とをお約束します。



MOAロサンゼルスウェルネスセンター長
テビッド・Y・ウオン氏

米国でも医療機関と組んだ研究を

年表 — 協定・共同研究 (平成21年～22年)

- 21年 1月 日本大学国際関係学部との共同研究(現在に至る)
※MOA奥熱海クリニックの佐久間哲也医師らと
共同でスピリチュアル尺度の開発研究を行う
- 4月 一般社団法人MOAインターナショナルとの共同
研究(現在に至る)
※岡田式浄化療法と人体の凝りなどに関する予備調査
- 22年 11月 タイ衛生省管轄・ダムナンサドゥアック市立病院と
の協定調印式
※岡田式健康法の効果に関する調査・研究



調印式



病院内でのお花のいけ込み



病院内での施術資格取得講座

研究所などと協定結び



医療関係者や報道関係者が見守る中で開催されたタイ・ダムナンサドゥアック市立病院との協力協定調印式=平成22年11月26日



ダムナンサドゥアック市立病院の多目的室では、週1回、浄化療法の施術が行われている

共同研究を推進

「医学および各種健康法と食、運動、環境などの健康への関連を総合的に調査、研究」を充実させようと、国内外の各機関と協力協定を結ぶなどして、共同研究を実施してきました。

海外では、財団設立初期にポルトガル国立リウマチ研究所などと共に、岡田式健康法の効果についての共同研究を実施したのをはじめ、近年では、コンゴ民主共和国国立健康科学研究所などと協定を結び、岡田式浄化療法の効果に関する共同研究を進め、成果が上がっています。

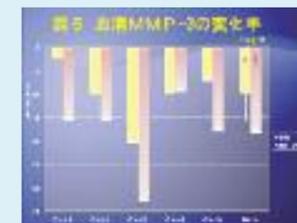
そのコンゴでは、遺伝病の鎌型赤血球貧血症(SS貧血症)が国民病として大きな問題となっていますが、岡田式浄化療法によって発作や輸血回数の減少、ヘモグロビンと白血球の数値の改善、臓器肥大や骨髄炎の解消といった効果が示され、注目を集めています。

昨年には、タイ衛生省管轄の統合医療のモデル病院であるダムナンサドゥアック市立病院と一般社団法人MOAインターナショナル、(財)MOAタイ財団と本財団とで協力協定を結び、岡田式健康法をはじめとする補完・統合医療の研究などを進めています。

国内では、医療法人財団(瑞泉会、玉川会、愛和会、光輪会)をはじめ、一般社団法人MOAインターナショナル、(財)微生物応用技術研究所、各地の医療機関および大学などの研究機関と連携して、岡田式健康法などの自然順応型健康法の調査、研究に取り組んでいます。

年表 — 協定・共同研究 (平成5年～20年)

- 5年 6月 国立リウマチ研究所(ポルトガル)との研究協定締結
※リウマチに対する岡田式浄化療法の効果研究
- 11年 7月 産業医科大学(福岡市)と共同研究(～13年)
※香りの心理・生理的な効果に関する研究
- 13年 7月 本財団と協力医療法人、クリニックとの共同研究を
スタート
※岡田式浄化療法の効果についての臨床研究がスタート



大塚実MOA名古屋クリニック院長による「関節リウマチ患者に対する岡田式健康法の効果に関する研究」の結果の一部。こうした成果は、学会で発表されている

- 17年 4月 静岡県伊豆の国市健康福祉部との共同調査・研究(～22年)
※足湯や運動、美術文化が心身に及ぼす健康効果について調査・研究
- 4月 静岡県熱海市(医)梅園クリニックと共同研究(～22年)
※保育園児のアトピー性皮膚炎と生活環境等についての実態調査
- 5月 MOA健康保険組合との共同研究(～22年)
※健康診断結果及び各種健康指導と岡田式健康法の実践関連を調査した
- 18年 11月 中間法人MOAインターナショナル(現・一般社団法人)と共同で岡田式健康法の大規模調査(約10万人)
- 19年 4月 新田記念統合医学研究所との協定(現在に至る)
※統合医療の調査研究や人材交流
- 20年 6月 コンゴ民主共和国国立健康科学研究所との研究協力に関する合意
※岡田式浄化療法の効果に関する研究



コンゴの研究所と協定

- 20年 11月 協力医療法人と研究の協定を結び
(医財)玉川会、(医財)瑞泉会、(医財)愛和会、(医財)光輪会

財MOA健康科学センター設立20周年に寄せて —

西洋医学は身体的な面からの治療にたけており、伝統医療などの相補・代替医療は、精神的な面からの働きかけや、人と人とのつながり、家庭環境や労働環境などの社会的な側面、実存(生きる意

義)を大切にしています。

西洋医学は身体的な面からの治療にたけており、伝統医療などの相補・代替医療は、精神的な面からの働きかけや、人と人とのつながり、家庭環境や労働環境などの社会的な側面、実存(生きる意



九州大学病院病院長・日本心身医学会理事長 久保千春氏

心身相関の研究への期待

西洋医学は身体的な面からの治療にたけており、伝統医療などの相補・代替医療は、精神的な面からの働きかけや、人と人とのつながり、家庭環境や労働環境などの社会的な側面、実存(生きる意

義)を大切にしています。

西洋医学は身体的な面からの治療にたけており、伝統医療などの相補・代替医療は、精神的な面からの働きかけや、人と人とのつながり、家庭環境や労働環境などの社会的な側面、実存(生きる意



コンゴ民主共和国国立健康科学研究所内の研究拠点となる岡田式浄化療法施術室の開所式で、コドンディ・クルコト所長が期待を語った=平成21年4月30日



岡田式浄化療法は、コンゴの国民病ともいえる鎌型赤血球貧血症を改善し、病む人に大きな救いをもたらしている

主な委託研究、研究助成 (平成9年～21年)

- 9年 畑中顯和 東亜大学経営学部植物生命科学教授
森林浴みどりの香りのヒトの免疫機能に及ぼす影響について
 - 10年 久保千春 九州大学医学部心療内科教授
心血管病や悪性腫瘍の発症と進行に影響する心理社会的因子アセスメント法の開発-Control Autonomy Questionnaire (CAQ)の信頼性と妥当性の検討:中間解析-
 - 10年 粟生修司 九州大学大学院医学系研究科統合生理野助教授
高次ホメオスタシス機能に及ぼす植物由来環境化学因子の作用
 - 10年 松本明世 国立健康・栄養研究所臨床栄養部室長
コレステリルエステル転送蛋白(CETP)遺伝子発現に及ぼす脂肪酸の影響に関する研究
 - 10年 坂部貢 東海大学医学部生体構造機能形態学部門助教授
環境ホルモンの生体に対する影響・膠原病の発症と関連させて
 - 11年 山根健治 宇都宮大学農学部助教授
花が人間の生理・心理学的パラメータに及ぼす影響
 - 12年 大櫛陽一 東海大学医学部医工学情報系教授
各種健康法が生活の質(QOL)に及ぼす効果に関する研究
-大仁瑞泉郷における健康増進プログラムの評価-
 - 12年 杉岡良彦 東海大学大学院医学研究科環境生態系専攻
岡田式浄化療法が精神・免疫・内分泌機能に与える影響
 - 13年 富松宏文 東京女子医科大学循環器小児科助手
動画による先天性心疾患のエコー診断トレーニングシステムの研究
 - 14年 木戸眞美 東北学院大学教養学部情報科学専攻教授
各種健康法による末梢血流循環動態や動的電気伝導度などの変化と健康状態との関連
 - 14年 岡本順子 埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科教授
機能性食品としてのザクロの有用性についての研究
 - 16年 中島敏博 京都工芸繊維大学助教授
みどりの香りの不思議な生理作用-ストレス後のACTH動態および体温相関-
 - 18年 ツムバ・ムアディ・カロンゴ コンゴ・ゴムへ教育大学名誉教授
S S貧血症に於ける岡田式浄化療法の貢献
 - 18年 マヌエラ・アレクサンドラ・ラモス・アテンシオ
イタリア・エンゾ・ボルゾマティペインセンター
後頭部に痛みを持つ偏頭痛患者の予防治療における岡田式浄化療法
 - 19年 小久保秀之 特定非営利活動法人国際総合研究機構生体計測研究所主任研究員
磁場刺激が生体試料(植物切片)に及ぼす作用を極微弱生物光を用いて測定し、その効果をヒトによる非接触ヒーリング(手かざし)の効果と比較・検討する
 - 19年 市来征勝 鹿児島県農業共済組合連合会家畜臨床検査研修センター嘱託員
自然農法で栽培した茶及びサツマイモの生理機能性の評価
 - 20年 フリオ・ラッフォ チリ・サンティアゴ大学医学部教授
体重超過および肥満における統合医療による効果についての研究
 - 20年 大塚実 (医財)玉川会MOA名古屋クリニック院長
関節リウマチ患者における岡田式浄化療法による疾患活動性、サイトカインの変化に関する研究
 - 20年 中西好子 (医財)玉川会金沢クリニック作業療法部主任
園芸療法による介護予防・健康増進プログラムの効果について
 - 21年 五島史行 日野市立病院耳鼻咽喉科部長
精神神経系薬剤の減量を目的とした自律訓練法を中心とした心理治療の導入と心身の健康度に与える影響
- ※所属、役職は当時のものです。
※○印は委託研究、無印は研究助成です。

生命科学の解明へ



委託研究、研究助成の研究結果は「発表会」で報告している。写真は、第1回発表会で「がんに対する宿主治癒力の研究」の結果を報告する新田和男医学博士=平成5年6月26日



第3回研究報告会では、柳川勉NTT光エレクトロニクス研究所主任研究員によるコロナ放電写真を用いた「生体の光計測の研究」などが発表された=平成7年6月11日

財MOA健康科学センター設立20周年に寄せて――



タイ・ダムナンサドゥアック市立病院
スラット・レックウタイ氏

効果を示すことは幸福な人生を基

ダムナンサドゥアック市立病院は補完・統合医療を本格的に患者の治療に応用してきました。病院とMOAは、これまでお互いに良い関係を持ち、その絆は、極めて強いものと確信しています。わが病院は、浄化療法をはじめ、食事法、美術文化法という岡田式健康法を患者さんの治療に取り入れていきます。その効果が認められ、施術を受けた大勢の人が関心を示しています。同時に、がん患者のターミナルケアとして研究助成を受けて「岡田式健康法による痛苦の緩和に関する共同研究」がスタートしました。

20周年に当たって、これまでの経験と実績をもってすれば、社会がますます高く永続的に評価し、新規事業の成功は間違いないものと申し上げたいと思います。

たが、研究が成功すればがん患者の痛苦の緩和のみならず、他の患者にもその使用拡大が望まれます。最終的には、幸福を得ることができるものと思っています。自然農法についても「農医連携」としてのアグロメディスンを病氣治療より予防を強調する健康管理に導入する方針で着手してまいります。

委託研究、研究助成

「研究のための研究ではなく、人々の健康に真に役立つ研究に対して支援していきたい」との願いから、平成3年の財団設立時より、人々の健康増進に貢献する研究に対して積極的に助成を行うと共に、他機関(研究者)に統合医療や各種健康法に関する研究を委託し、医学および各種健康法による健康への効果などの調査、研究の充実を図ってきました。

委託研究、研究助成の件数は、同22年度までに140件で、その内12件は海外9カ国の研究者に対するものです。その研究成果は、当財団の研究報告集やホームページなどで公表しています。

委託研究には、新田和男医学博士(現在、本財団顧問)らによる「がんに対する宿主治癒力の研究」、浄化療法や気功といった生体エネルギーの正体を解明するための、菅野久信医学博士らによる「生体エネルギーの生理心理学的研究」などがあります。また、研究助成には、畑中顯和農学博士による「森林浴みどりの香りのヒトの免疫機能に及ぼす影響について」、中井弘和農学博士による「自然農法栽培作物の生命力の評価に関する研究」などがあります。(主な研究一覧を別掲)

こうした研究に対して、本財団の研究員らが予備調査を担うなど、さまざまな面で協力しています。

また、各種研究が社会的により有意義なものとなるよう「研究推進委員会」を設置して研究の審査を行うと共に、同19年3月より「治験審査委員会」を設置し、ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則を示す「ヘルシンキ宣言」を基本として、研究内容を厳正に審査し、研究成果が正当に評価されるよう取り組んでいます。



本財団では、委託研究を行うと共に、意義ある研究に対して助成を行っている。写真は、平成9年度研究助成金贈呈式



委託研究や研究助成の結果は「研究報告集」に掲載し、健康づくりに資する情報として広く一般社会に提供している。これまでに14巻発行された

主な委託研究、研究助成 (平成3年～9年)

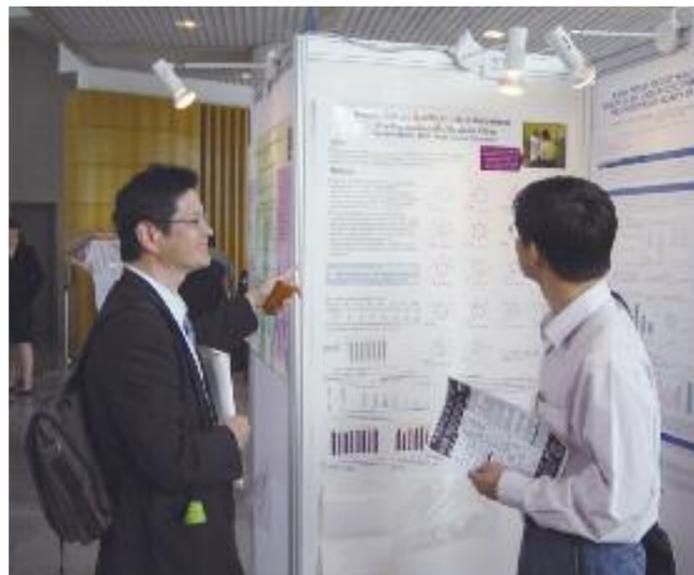
- 3年 赤羽ひろ 日本女子大学助教授
嚥下障害をもつ高齢者のための“飲み込み易い食べ物”の総合的検討
- 4年 宮田雄祐 大阪市立大学医学部小児科講師
解熱剤による解熱効果が小児急性感染症(特に上気道炎)の病状並びに経過(予後)に及ぼす影響
- 4年 谷口克 千葉大学医学部教授、千葉大学医学部付属高次機能制御研究センターセンター長
免疫制御の分子機構
- 4年 新田和男 (財)微生物化学研究会付属微生物化学研究所
癌に対する宿主治癒力の研究
- 4年 菅野久信 MOA九州生命科学研究所所長
香りの誘発反応について
- 4年 山岡淳 日本大学文理学部心理学研究室教授
気功の生理心理学的研究(第1報)
- 4年 辻啓介 国立健康・栄養研究所応用食品部食品栄養評価研究室室長
食餌たんぱく質の種類とアミノ酸がコレステロール胆石形成に及ぼす影響
- 4年 吉田企世子 女子栄養大学教授
有機質肥料の施用、無農薬により栽培されたブロッコリーのβ-カロチン、アスコルビン酸、還元糖およびクロロフィル含有量
- 5年 藤木博太 埼玉県立がんセンター研究所
緑茶エキスによる癌の化学予防の研究
- 5年 中井弘和 静岡大学農学部教授
自然農法栽培作物の生命力の評価に関する研究
- 6年 柳川勉 NTT光エレクトロニクス研究所光素子研究部
生体の光計測 -コロナ放電写真と生体情報検出-
- 6年 力石サダ 神奈川県立栄養短期大学教授
自然農法米と慣行農法米の食味と栄養成分の比較研究
- 6年 宮田幹夫 北里大学医学部眼科学教室教授
生活環境因子と花粉症
- 6年 須貝高 福岡大学工学部建築学科教授
住環境における化学物質汚染の実態
- 6年 松岡秀雄 東京大学先端科学技術研究センター講師
地球酸性化問題の構造
- 7年 鈴木清志 日本心臓血管研究振興会付属榊原記念病院小児科副部長
日本、イギリス、オランダにおける先天性心疾患の研究~Quality of lifeの向上につながる新しい治療法の確立をめざして~
- 7年 新里里春 琉球大学教育学部教育心理学科教授
選択科目「生け込み」授業の効果に関する心理学的研究
- 8年 友澤靖子 京都府立医科大学付属脳・血管系老化研究センター講師
マクロファージ・コロニー刺激因子(M-CSF)の中樞神経系神経細胞の生存維持・分化効果に関する研究
- 8年 土田満 愛知みずほ大学人間科学部健康科学助教授
日本人の業食における血漿アミノ酸と血清インスリンおよびグルカゴン濃度の関係
- 8年 竹内佐智恵 東海大学健康科学部助手
自然農法および化学農法産物における活性酸素消去能の経時的変化の比較研究
- 8年 吉田貴彦 東海大学医学部環境保健学部門助教授
食器容器から溶出する金属による食品汚染の検討
- 9年 杉江広紀 産業健診センター所長
骨粗鬆症の健診における事後指導について
- 9年 近藤和雄 国立健康・栄養研究所臨床栄養部臨床栄養指導室室長
ポリフェノールの動脈硬化予防作用に関する研究

年表 — 学会発表 (平成17年～22年)

- 17年 3月 第1回癌の統合医療マネジメントに関するタイ国際会議
「MOA三大事業と痛患者に対するその臨床効果について」(新田和男医学博士)
- 5月 第23回日本生理心理学会大会(以後5回 5題発表)
「リラクゼーション時における脳血流と脳波、自律神経活動の相関について」(内田誠也主任研究員)
- 6月 第4回JACT沖縄支部大会
「QOL尺度による統合医療の評価」(木村友昭主任研究員)
- 8月 第18回世界心身医学会議
「岡田式浄化療法はホルモンのアンバランス状態でも更年期症状を改善する」(鈴木清志理事長)
- 11月 第35回日本臨床神経生理学会学術大会
「足湯が脳波に及ぼす影響」(内田誠也主任研究員)
- 19年 5月 代替・相補・伝統医療国際会議
「国際的に見たエネルギー療法の臨床応用と将来性について」(鈴木清志理事長)
- 20年 3月 第3回国際相補代替医療研究会議
「生体エネルギー療法(岡田式浄化療法)の効果に影響を与える因子について」(鈴木清志理事長)
- 21年 5月 北アメリカ統合医療学会
「日本における生体エネルギー療法の安全性と有効性に関する研究」(鈴木清志理事長)
- 6月 第1回日本心身医学会5学会合同集会
「絵本素材によるナラティブアプローチの有用性」(佐久間哲也常務理事)
- 9月 ホリスティック・ウェルネス・シンポジウム2009
「心と体と霊性の健康に関する岡田式健康法」(内田誠也主任研究員)
- 9月 第20回国際心身医学会
「生体エネルギー療法・美術文化法・食事法による岡田式健康法がQOLに及ぼす効果について」(鈴木清志理事長)
- 9月 日本応用心理学会(ワークショップ企画・開催)
「自然美や芸術が受け手の心理に及ぼす影響」(木村友昭主任研究員)
- 22年 5月 第5回世界相補代替医療研究会議
「日本における生体エネルギー療法の大規模アンケート調査—施術の有効性・安全性とその関連因子—」(鈴木清志理事長)
- 7月 第27回国際応用心理学会
「高齢者におけるビジュアルアナログ尺度およびフェイス尺度を使用したコンピュータ利用の健康評価の妥当性」(木村友昭主任研究員)



自主研究積み上げ



香港で開かれた「国際QOL学会大会」では、木村友昭研究員(左)が「心療内科の外来患者における健康関連QOL」について報告した(平成16年10月16～19日)

財MOA健康科学センター設立20周年に寄せて—



人の心と身体をトータルにケアする岡田式健康法

平成3年、財MOA健康科学センター理事でいらつしやうた菅野久信先生のご紹介で、研究助成を受けたことがお付き合いの始まりです。

「外気功と岡田式浄化療法の生理心理学的効果に関する比較研究」は、何も知らされていない被験者に気功や岡田式浄化療法を施術し、脳波の変化を調べるものですが、施術時だけは脳波が変化するという、非常に興味深い結果が得られました。

ホームページに寄稿した「悪玉ストレスを善玉にしよう」に述べましたが、ストレスとは全てが

「悪玉」ではなく「善玉」もあり、「悪玉」を「善玉」に変容する「姿勢」は大切であるとの持論を持っています。

「善玉」と「悪玉」のためにはストレスに対する「緊張」と「弛緩」が変動し、片方に偏らないバランスが重要です。これを整える方法として、芸術や岡田式浄化療法が有効なのです。

現在は、同センターの顧問として、日本の美術・文化や岡田式浄化療法が人の心理や生理に与える影響を研究し、その成果を応用心理学会のワークショップなど、国内外の学会で報告しています。

現在の医療現場を見ると、極端に医療機関の細分化がされていると感じています。

高度な医療を追求するあまり病気を人々を細分化して評価し、トータルとしての人を見ていないのではないかと考えられます。

人の心と身体をトータルにケアするバランスのとれた統合医療が世界的な潮流となり、今後の医療の発展に重要な役割を果たすと考えます。その点、同センターの研究には心から期待しています。

日本大学名誉教授
山岡淳氏

各学会で成果を発表

本財団では、有益な研究に対する助成や研究委託だけではなく、人々の心身の健康に役立つ統合医療をはじめとした医学および各種健康法の研究を本財団の研究員らによって自主的に進め、積極的に各学会で発表してきました。

主には「岡田式浄化療法の効果と安全性～日本人75,000人に対するアンケート調査」(鈴木清志理事長)、「岡田式浄化療法が自律神経活動に及ぼす影響」(内田誠也主任研究員)、「MOAのQOL尺度の妥当性」(木村友昭主任研究員)、「予備調査～岡田式浄化療法は肩凝りや苦痛を緩和しQOLを改善させる」(津田康民研究員)などの研究があります。

その研究内容によって発表する学会は異なります。世界心身医学会議では岡田式浄化療法が更年期症状に及ぼす影響に関する研究成果を、国際応用心理学会や国際QOL学会などの国際学会では岡田式健康法が人のQOLに及ぼす影響に関する研究成果を報告。国内では日本生理心理学会などがあります。日本応用心理学会では浄化療法によるリラクゼーション効果に関する研究、国際生命情報科学会では浄化療法が肩凝りを緩和させる効果に関する研究など、多くの学会にさまざまな研究成果を発表すると同時に、論文の投稿を行っています。

中には、自主研究のみならず、協力医療機関の医師はもちろん、看護師や作業療法士らと連携して、臨床現場での調査、研究を踏まえた成果も報告しています。

特に、日本統合医療学会では毎回、数件の研究報告を行っていますが、同学会の中でMOAグループへの信頼が高まり、本財団と協力関係にある看護師2人が、同学会認定資格者の会の代表世話人に選出されています。

近年、生命科学研究所および各研究室(静岡、大阪)では、脳波や自律神経系などの計測による生理心理学的研究、QOLやスピリチュアリティなどの計測による疫学的研究、生体の極微弱発光(バイオフォトン)や筋硬度などの計測による評価法の研究など、各種健康法に関する基礎研究および実証研究の充実を図っています。

多くの人の健康づくりに反映されることを願い、今後も、新田記念統合医学研究所や協力医療機関との連携をより強化しながら、調査、研究を進め、積極的に研究成果を発表して、社会に還元するよう取り組んでいきます。



大仁研究室にて研究を行う内田誠也主任研究員。脳波や体表面温度の変化など、岡田式浄化療法が及ぼす影響を、専門の機器を用いて計測している

年表 — 学会発表 (平成5年～17年)

- 5年 9月 日本応用心理学会・第60回大会(以後8回 11題発表)
「気功の生理心理学的研究」(内田誠也主任研究員)
- 9年 6月 ISSSEEM(国際サトルエネルギー医学会)
「Effects of Untouched Healing on the Autonomic Nervous System」(菅野久信医学博士)
- 12年 11月 第11回国際ストレス学会
「日本医術による改善症例」(新田和男医学博士)
- 13年 9月 第62回応用物理学学会学術講演会
「生体への刺激と生物フォトン観測」(柳川勉工学博士)
- 10月 第60回日本公衆衛生学会総会(以後2回 2題発表)
「大仁瑞泉郷における健康増進プログラムの評価」(木村友昭主任研究員 他)
- 11月 第3回Spiritual Healing ハワイ会議
「日本医術・浄化療法の効果について」(菅野久信医学博士)
- 11月 第23回日本健康増進学会
「花が心身に及ぼす影響について—淡路花博、北九州博覧祭での公開実験—」(津田康民研究員)
- 14年 5月 日本統合医療学会(以後7回 10題発表)
「全人的医療を進める診療所における外来患者の健康関連QOL」(木村友昭主任研究員)



第13回日本統合医療学会で発表する伊波剛彦(財)MOA沖縄事業団療院クリニック院長(当時)

- 8月 「潜在能力の科学」国際フォーラム
「脳波および自律神経におよぼす外気の影響」(内田誠也主任研究員)



- 15年 3月 国際生命情報科学会(以後8回 12題発表)
「自律神経に及ぼす外気の影響—施術者の熟練度による効果の違いについて」(内田誠也主任研究員)
- 12月 第7回日本代替・相補・伝統医療会議(以後、日本統合医療学会と合同)
「岡田式浄化療法(外気照射)による更年期年代女性の心拍変動の変化」(内田誠也主任研究員)
- 16年 9月 日本健康心理学会(以後1回 1題発表)
「足湯の心身の癒しに関する生理心理学的研究」(内田誠也主任研究員)
- 10月 国際QOL学会(以後6回 6題発表)
「心療内科における健康関連QOL」(木村友昭主任研究員)

年表 — 健康法の紹介・啓発 (平成16年～22年)

- 16年 健康度測定 (大阪府箕面市他7カ所)

和歌山・公開セミナー
- 17年 健康度測定 (広島県三次市他12カ所 2,103名)
- 18年 健康セミナー (8カ所804名)
健康度測定 (25カ所 3,877名)
※「世田谷区第1回健康づくり推進週間」でセミナーと健康度測定を実施
※「国民文化祭・やまぐち2006」(財)MOA美術文化財団への出展協力
- 19年 健康セミナー (7カ所 870名)
健康度測定 (29カ所 3,508名)
※「仙台芸術祭」でセミナーと健康度測定を実施

- 20年 健康セミナー (8カ所 465名)
健康度測定 (23カ所 2,959名)
※箱根美術館「紅葉会」でセミナーを実施。
※新田記念統合医学研究所主催のフォーラムに協力(箱根町)

- 21年 健康セミナー (8カ所 736名)
健康度測定 (16カ所 2,032名)
※水見市海浜植物園健康まつりでセミナーと健康度測定の実施
- 22年 健康セミナー (12カ所 1,099名)
健康度測定 (19カ所 2,531名)

北海道滝川市

東京都西東京市

研究成果を広く紹介



東京都などの後援を得て開催した「都民の健康を考える公開セミナー」。第3回となるこの時は、アトピー性皮膚炎の改善事例などが報告された。平成11年7月18日

「財MOA健康科学センター設立20周年に寄せて」



「HUMAN」の面にも踏み込む総合的な医学を目指して

平成3年からは、MOA九州生命科学研究所の所長として、その後、(財)MOA健康科学センター顧問として、岡田式浄化療法の科学的研究を進めることができ、感謝しています。

私は、日本の心身医学の父と呼ばれる故池見西次郎先生と協力して、心療内科の研究のための医療機器の研究、開発を行ってきました。また、心身医学における脳と精神の関係の研究の中で、現在の科学では未知なる存在である「気」や「エネルギー (Subtle Energy)」といったものに関心が高まり、これらの科学的な研究に取り組むよう

になりました。

人間の生命活動における心と身体、および「霊性」との関係を探るために、脳波計をはじめ、体の微細な振動を捉えるマイクロバイブレーション、体表面の温度変化を測定するサーモレーサーなどを用いて、気功や浄化療法などの効果について研究を重ね、脳波のα波が増加し、リラックス効果を生むなど、浄化療法が生体を正常化する効果を持つことを実証し、国内外の学会で報告してきました。

現在の医療は、自動車や電機器具の修理と同じように、壊れた部品の交換にすぎないと感じます。

臓器だけではなく身体全体を見て「この」面にも踏み込む総合的な医学が必要だと思えます。

私は「霊性」というのは「この」の本質にあるものだと思っています。浄化療法は人間の心の乱れを整え、浄化する方法で、現代医学の治療法に浄化療法を組み合わせることで、さらに治療効果を上げることができると考えています。心と身体の間から健康を目指すという点で、岡田茂吉先生が創成した浄化療法は、優れた効果があると思えます。今後も岡田式健康法の基礎的な研究をさらに推進していただければと願っています。

産業医科大学名誉教授
菅野久信氏

健康づくりに貢献

近年、生活習慣病の増加や食および生活環境の悪化などの問題を背景として、国民の健康増進と予防医学に対する関心が高まると共に、地域社会においては生活習慣病の予防と改善を目指す健康づくりの展開が重要になりつつあります。

そうした中、本財団は平成14年から国民健康づくり運動を進める「健康日本21推進全国連絡協議会」に入会し、地域社会の健康づくりに貢献すべく取り組んできました。

具体的には、心身の健康づくりに役立てるよう、科学的根拠のもと生活習慣などの改善を促すべく「自然治癒力を生かす自然順応型の健康法」の紹介に努めてきました。その際に、日常生活での健康づくり、その意識の高揚が図られるよう、健康づくり行事や健康増進施設において、研究成果の紹介などを行ってきました。

とりわけ、各地での「健康フェア」や「瑞泉郷まつり」などの健康増進行事では、本財団の研究者らが出向して、ミニセミナーを行ったり、QOLやストレス度、筋硬度や血管年齢などの健康度測定を実施。同測定ではこれまでのべ16,000人に体験していただきました。

さらには患者中心の医療、一人一人を大切にする医療として相補・代替医療を含めた統合医療の充実を望む声が強まる中で「治療、予防、健康増進」の総合的な視点に立った医療や健康づくりの観点から、大仁瑞泉郷などの素晴らしい自然環境での健康プログラムや岡田式健康法などを、自然順応型の健康法として紹介し、それを通して、自然治癒力やQOLの向上、心身の健康づくりのサポートを心掛けてきました。



本財団鹿児島支部が主催した公開セミナー。腰椎間板ヘルニアの改善事例について、牧美輝光輪会鹿児島クリニック院長らが報告した。平成12年5月14日



「ニッポン再発見〜ベルツの見た伝統文化と統合医療〜」と題して講演する菅野久信氏。MOA奥熱海クリニック院長＝平成21年4月18日・MOA美術館能楽堂

年表 — 健康法の紹介・啓発 (平成10年～16年)

- 10年 10月 「自然体験の日」の開催(静岡県大仁町 10～12月)
- 11月 「大仁瑞泉郷まつり」の共催(大仁町)
※春・秋、開催のたびに共催

ストレス度などを測定する菅野久信氏(当時)
- 11年 3月 「生命(いのち)の博覧会」への出展(東京都江東区 3月30日～4月8日)
※日本医学会総会に併せ「医学展示・博覧会(生命の博覧会)」が開催され、自然順応型の健康法の体験と公開実験を行う。来場者31万名のうち約1,000名が体験

- 9月 大仁瑞泉郷「健康づくりの日」を開催
※自然順応型の健康法のプログラムを体験し、生活の改善に取り組む
毎月8～12回継続。平成12年12月まで実施
- 12年 7月 「花と緑の国際博覧会ジャパン・フローラ2000」への出展協力(兵庫県 7月11～20日)
(財)MOA美術文化財団の出展に協力し、公開実験を行う
- 13年 7月 「ジャパンエキスポ北九州博覧祭2001」への出展協力(福岡県 7月4～8日)
(財)MOA美術文化財団との共催での出展に協力し、公開実験を行う
- 14年 10月 タイ生命科学芸術学院開所に伴い、タイ衛生省シータンヤ病院などにおいて、自然順応型の健康法の研究成果の紹介と公開実験を行い大きな反響を得た(タイ 10月20～29日)

心身医学講演会で語り掛ける菅野久信氏(医学博士＝14年12月6日・琉球大学)
- 15年 健康セミナー、健康度測定 (北海道札幌市他5カ所)
- 16年 6月 「しずおか国際園芸博覧会浜名湖」への出展協力(静岡県 6月19～27日)
(財)MOA美術文化財団との共催で出展に協力し、公開実験を行う
「健康日本21」の推進を機に全国に出向し、現在も健康セミナーや健康度測定を通して国民の健康づくりに取り組んでいる